

なくてはならない  
JAに！

# 農業者の声に お応えします

第2回

令和元年5月までの政府による農協改革集中推進期間が経過しましたが、当JAではJAの運営者である組合員の皆様からの声を事業に反映・実現していき「なくてはならないJA」となれるよう、引き続き「自己改革」に取り組んでおります。先月号に引き続き管内6人の農業者への出向く営農指導とともに組合長が同行し、意見交換を行いました。

## 産直農家 矢野 正博さん(瀬戸市)

新野菜などの農産物について広く認知させるためインショップで販売し、併せてグリーンセンター等で販売したらどうでしょうか。グリーンセンター等がもっと活発になり、産直品が売れるように取り組んでみたいのです。



## 石黒 組合長

産直品を広く販売するためイトーヨーカ堂やコープあいち、マックスバリュ、平和堂等に販路拡大しています。またグリーンセンター等では食育ソムリエによる試食やレシピの提案などで地元農産物のPRを行い、広く認知させるとともに販売促進に取り組んでいます。今後も販路拡大に努め、出荷いただいた農産物が売れるように継続的に取り組んでまいります。



## ぶどう農家 浅井 亮太さん(日進市)



2017年からワインを製造しており、今年も800本作りたいたと考えています。ワインを製造する過程よりも宣伝することが難しいです。自分がつくったぶどうをより多くの消費者に広めていきたいので、JAとしてイベントや宣伝する場所があれば発信してほしいです。

また色々な品種のぶどうジュースの製造に挑戦していきたいと考えています。ただ、知識がないので味や品質が製造業者まかせになってしまうため、こだわりの一品にどう作り上げるか思案しています。

## 石黒 組合長

農林水産フェアなどといった自治体が開催するイベントの案内はもちろん、JAが主体となり生産者と消費者の交流の場を提供していきます。

現在サンプル等をいただいたうえで試験的な加工品の開発を行っています。今年度発足する青年部で生産や加工に関する勉強会などを開催し情報共有を行ってまいりますので、青年部に加入いただきたいと思います。



## 産直農家 加藤 孝雄さん(長久手市)

営農指導についてグリーンセンター等の商品が品薄になることが無いように農業者に対して栽培計画を提案し、対策を講じてほしいです。

圃場の水について、愛知用水から水を引いていますが使える時期が限られるため、なにか対策はないでしょうか。

## 石黒 組合長

栽培計画に関しましては、端境期にも出荷できる計画を産直会員に対し提案できるように努めます。また今年の愛知用水は長久手市以外でも使用可能になったのが少し遅かったと聞いております。この状況は水稻の作業にも影響を及ぼしますので、当JAからも愛知用水に対し、要望を行っております。

## 産直農家 只井 昭さん (日進市)



会社員の息子が農業を継いでくれるのか心配です。これは大多数の農家に共通する悩みであるため、JAとして事業後継サポートや新規就農への支援をしてほしいです。

グリーンセンター等の棚を整理し産直品の置き場をしっかりと確保してほしいです。

## 石黒 組合長

親元就農の支援は出向く営農担当者より積極的に支援していき、行政と連携して事業承継のサポート策を検討し対策を講じていきます。また女性のアグリスクール等から新規就農者への支援も継続的に実施していきます。グリーンセンター等につきましても棚の整理及び購入しやすい商品陳列の指導を徹底します。

## 産直農家 三浦 浩さん(尾張旭市)

イノシシが、畑を荒らす被害が出ており鳥獣被害に困っています。

また出荷袋を統一して価格を低減されましたが、ホームセンター等に比べるとまだ高い印象があります。産直出荷に袋はどうしても必要となるので、更なる価格低減をしていただきたいです。



## 石黒 組合長

昨年度、行政には捕獲檻を寄贈し、組合員の皆様には刈払機や害獣よけ柵などの購入に対し588件、920万円の助成を行いました。今後も地域農業の振興のため助成支援を実施してまいります。

出荷袋に関しては全店舗で注文を取りまとめ、大量発注することで価格低減に努めています。今後も更に充実させ、価格低減を実感いただけるよう取り組みます。

## 産直農家 蟹江 褒明さん(豊明市)



現在みかんを栽培しており、規格外のみかんを加工用としてJAに出荷しています。生食だけでなく商品として加工してもらえるのは大変嬉しいです。また、産直店舗等を集客力のある施設としてリニューアルを検討してはどうでしょうか？

## 石黒 組合長

昨年度から取り組み始めた農産物の加工などの6次産業ですが、今年度も皆様の声に応えられるよう取り組みをすすめていきます。また、出向く営農担当者による栽培指導や提案により農産物に更に付加価値が付くよう努め、あわせて魅力ある店舗づくりに取り組みます。